

看護師養成部会（第3回） 会議録

日 時：平成24年6月5日 午後13時30分開会

出席委員：上田委員、川崎委員、久保出委員、福田部会長（50音順）

欠席委員：西委員

<会議の概要>

○議事

議題1 第2回検討事項の整理について

事務局説明 **資料1** 第2回検討事項の整理

福田部会長 ありがとうございます。何か修正すべき点、あるいは、ご意見等ございますでしょうか。委員の皆さまのご意見を伺いたいと思います。いかがでしょうか。よろしゅうございますか。それでは、後ほど併せて意見がございましたら、またご意見をお出しいただきたいと思います。

続きまして、議題2の第2回会議の検討課題ということで、ペンディングになっていた件につきまして、まずはご説明を賜りたいと思います。事務局のほう、よろしくをお願いします。

議題2 第2回会議の検討課題について

事務局説明 **資料2** 第2回会議の検討課題について (検討課題1 看護学校の定員数の増員)

福田部会長 どうもありがとうございます。非常に丁寧な調べをやっていただいたと思いますが、ここまでのご報告について、何かご質問はございますか。この後の資料についてはいかがでしょうか。続けてやっていただいてもいいのではないのでしょうか。

事務局説明 **資料2** 第2回会議の検討課題について (検討課題2 加賀看護学校および加賀市民病院の残債について) (検討課題3 単独で運営している看護学校の事例について)

福田部会長 ありがとうございます。全体かなり綿密にお調べいただいたと思うんで

すが、合わせまして3項目について、何かご質問、ご意見等ございますか。病院と離れた立地での運営の事例という中では、交通費を支給してないところが多いんですね。これは学生さん、大変ですな。スクールバスなんかを持ってるところはないんですね。

事務局　　今回調べさせていただきました中では、そういったバスでの運用というところはありませんでした。

福田部会長　　持ってないの。タクシーで相乗りというのがありますね。

事務局　　そうですね。2点目のところにそういったケースで対応されている学校もございます。

福田部会長　　学生さんにとって非常に大きな負担になるから、もう1回再考していただく。どういうふうにするかということは、極めて重要な問題としてペンディングにさせていただいて、取り組んでいただく必要があろうかと思えますね。それでなくても、経済的にも非常に困ってる学生さんが多いわけですから、講義のたびに移動しなきゃならないということは、かなり負担になると思えますね。他はいかがでしょうか。

上田委員　　モチベーションの高い学生は自己負担でも構わんと思います。それから、例えば医師会ですとか、医療機関から補助が出ておるとか、そういうことまで調べられていますか。

事務局　　現在調査した中では、補助というところまではちょっと調べられておりません。

福田部会長　　他にいかがでしょうか。

久保出委員　　4ページ目にあります、現市民病院の建物を看護学校にして活用するということが書いてあるんですけども、どの程度の活用が必要なのかということをお具体的にお願いします。

事務局　　病院部分を看護学校として活用する場合の条件をもうちょっと詳しく説明いたします。面積としましては、病院の建物のうち約3分の1であったり半分弱ぐらい残債の償還が終わった場合には、そちらのほうは除いて、残っている金額に対しての面積分について、使用することが必要ということをお北陸財務局の方から聞いております。

福田部会長　　これは結局、今まで未償還の部分に限って、その当たる面積を利用するというので、看護学校として利用する必要は必ずしもなくて、国の見解としては、市が病院の跡地を利用するということの合理的な目的性が認められれば、猶予されるという説明だと思うんですけども。

事務局　　そのとおりでございます。

福田部会長　　これについていかがですか。この間ご説明いただいた時も、私、申し上げたんですが、確かに1日も早く財政的な事情が許せば、併置することがいい

に決まってるわけですね。しかしながら、財政的な残債の問題がありますから、最終的には行政の判断になるんですけれども、市民病院の跡地をどのように使うかということに関しては、例えば市民のためのいろんな憩いの場であるとか、あるいは、いろんな意味での行政的な使用方法だとか、使い方がいろいろあると思うんですが、工夫していただくのは、行政の力の発揮しどころ、見せどころであると考えます。いい跡地利用を考えていただいて、残債が一度に来るようなことのないように、できるだけ早く看護学校が併置に持っていけるような取り組みを実現していただきたいと、部会長としてはお願いしたいというふうに思います。他に。

川崎委員 附属の看護学校で、その病院にどれだけの学生が看護師として、自病院に就職するのかっていうのはわかりますか。

事務局 今回の調査では、その部分はちょっと調査ができておりません。

川崎委員 学校訪問してきますと附属の病院でさえ、なかなか看護師確保に苦労します。以前、西委員のほうからも「お宅には看護学校があるのに、何でうちに来るんですか」というような言い方もされるということも聞いてるものですから、看護師確保というところで、看護学校併設という意味ではちょっと割合を聞いたかったのです。

福田部会長 併設してる場合とそうでない場合とで、どれだけの残存の率の違いがあるかと。

川崎委員 それも分かればいいんですけども、差があるかですね。

福田部会長 これはまだお調べいただいてないということですから、機会がありましたら、そういうデータがあればお調べください。いろんな意味合いがあって、ご質問いただいた看護学校の併設のメリットという中に入ったんですが、これは学生に対するインパクトという面が非常に大きいわけですよ。目の前で医師や看護師やコメディカルな方々がしょっちゅう出入りしていると。それから、患者さんが出入りなさっているということで、自分は将来こういう職場でもって働くんだというその思いが、じかに伝わってくるのが日々の学習の動機付けになると。この教育効果はもう計り知れないものがあるというふうに私は思います。先ほど何回も申し上げましたが、願わくば、1日も早く併設のほうに持っていっていただきたいというふうに私個人としては思います。他に何かご意見賜ることはございますか。

久保出委員 看護学校の立場として、石川県、福井県の各高等学校の訪問をさせていただいて、学生を募集する活動をしているんですけれども、その中で進路担当の先生の言葉として、「加賀市民病院というのは移動するというふうに聞いたけれども、一緒に行くんでしょね？」というような確認をされる学校もあります。病院と併設であるメリット、良さというのがあるので、そういう

ところを学生に紹介していきたいという言葉も聞きますので、学生募集に関しても併設のメリットは大きいように思います。

福田部会長　　そうですね。先ほどの交通費の自己負担の例も看過できない大きな問題として残ると。学生に対する支援と、あるいは、特に離れてるときの実習の在り方については、行政の知恵を絞っていただきたいと思う次第であります。他にご意見ございませんか。定数のことについてはいかがでしょうか。あるいは、1番の検討事項のことについてもご意見いただきました。それらについても併せてご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

久保出委員　　定数のことにつきましては、ハードの面以外では、『30人という少数精鋭でやっております。』という1つのうたい文句が無くなるのはどうかという思いもありますが、今年の1年生は1クラス36名おります。今まで、30人とそんなに遜色なくできていると思うので、ハードの面でスペースが少し狭いというものを除けば、36は別に何の問題もないかなと思います。学校の希望としては40という定員があってもいいかなと。

福田部会長　　それは久保出先生のほうからお考えになりましても、これから少子化は進むけれども、前にもありましたね、議論で。受験生の推移を見ても、たぶん40人は確保できるだろうという見通しだとおっしゃったと思うんですが。

久保出委員　　当分は可能かなと思っております。今は見込みとしてのデータを見ましても、10年くらいの確保は可能であると考えます。立地の条件というのは、影響する可能性もあるのではないかなという思いはあります。

福田部会長　　少数精鋭主義と言ったら聞こえはいいですけども、要するに、人数が少ないというだけですよね。

川崎先生、他に確認することはございますか。

川崎委員　　定員数増員による収支の変化を参考にさせていただいても、40でハード面をきっちりやっておけば、先生方の人数はあんまり変わらないということであれば、2025年問題ももうすぐ迎えますし、看護職を増やすという意味でも40のほうがいいんじゃないかなと思います。

福田部会長　　確かに25年問題という、非常に高齢化が進んでいくという問題に対して、あらかじめ加賀市の将来像を据えた上で、看護師の充足ということができるだけ力を保存していくためには、40名が適切であろうと前にも議論いただきました。一応、部会といたしましては、大体40名が適切ではなからうかという案でいったらというふうに思います。

それでは、後でまとめてご議論いただくことにいたしまして、3番目の看護師養成部会の検討状況につきまして、今回は、その内容の報告案を検討していただきまして、取りまとめたいというふうに思います。といいますのは、6月7日に開催予定の医療提供体制推進委員会に報告することになってお

ります。そういうことで、事務局のほうから中間報告案についてご説明賜りたいと思います。

議題3 看護師養成部会の検討状況について(中間報告)

事務局説明 **資料3** 看護師養成所について

資料4 看護師養成部会の検討状況について(中間報告)

福田部会長 大体今までの議論をまとめていただいたと思います。早速ですが、上田先生、これはいかがでしょうか。

上田委員 中間報告の資料4の1ページ目です。現状についてですけど、就職実績と書いてありますが、定員30人に対して例年、卒業生10人未満となっていて、その人らがどういう理由で、この地を離れていったかということをもっと調査していただければ、非常に有意義な確保策になると思います。調べてあるならば、久保出委員のほうから、ぜひご紹介いただければと思います。今後とも経年的に調べていって、改善すべきところは改善したらいいのかなと思いました。

それから2番目ですけども、少子化も進みますし、看護学校も石川県内にいろいろあって、将来的に大学になるようなことも考えておると言われたんですけども、高度な医療を目指すんだということも1つ見せていく必要があると僕は思っています。その点に関しては、大学的なことも必要だろうし、いろいろやる気のある学生に対しては、もう少しレベルアップすることもされたらいいんじゃないかなと思います。大学あるいは加賀市内の病院との人事交流というのも4ページ目に載っていますから、いろいろな目を開かせるというようなことが必要だろうと思っています。それから、学生が勉強しやすい、あるいはこの地に残りたいというような環境整備って非常に大切だと思うんです。まちづくりのためにも必要です。都市近郊の文化的な水準といいますか、教育文化とか、そういうレベルに加賀市を持っていいかなというのを自分では思っています。

もう1つ追加しますと、いろいろと提案がされたんですけども、今後はネットワークを使っていろいろ議論をされたらどうでしょうか。パートナーシップ・ナーシングシステムの導入とかを掲げておるんですけど、自分は体験しとらんもんで、ある程度は分かるんでイメージできるんですけども、実際の体験というのとはまた全然意味が違ってきますから、今後はそういうところもぜひ取り入れて議論していく必要があるんじゃないかなと僕は思いま

した。以上です。

福田部会長 ありがとうございます。今、非常に重要なご指摘をいただいたと思うんですが、1番目の、特に離職率ですね。これは久保出先生、何%ぐらいの離職率なんでしょうか。例えば10人就職して、3年後に大体何人が離職してるかという値は、どのくらいでしょう。

久保出委員 最近はほとんどない。0ですね。3年ぐらい前までは8%とか7%近く、都会ではありましたけど、加賀市民病院の例を取りますと、離職率は0です。

福田部会長 それは優秀ですね。

久保出委員 先ほど上田先生のお話の中で出てきました、なぜ、この加賀市を離れるかという理由も余り離れた者がいないので、正確な理由とか多くの理由、事例はないんですけども、まず、卒業時に加賀市を選ぶか選ばないかという学生の選択条件の1つには、まず、都会かどうか、人との交流ができるかどうか、それから、新しい高度な医療ができるか、給料がいいか、手当がいいかっていう視点もあります。決してそれだけではないので、そういう視点を持ちながら、どう加賀市に残ってもらえるかっていうところで、都会あるいは金沢の資料と比較しながら、加賀市内のお給料、福利厚生面について比較している学生が多くいます。今年3月に卒業した学生は15人中9人が加賀市というところで、かなり加賀市民病院の新築移転で自分たちが入ることによって、新しい病院づくりの力になれるんじゃないかという大きな目的とモチベーションが非常に高くなって選んだ学生が多いように思います。それから、一度就職して退職した主な理由は結婚ですね。それ以外はあまりないように思います。加賀看護学校を卒業して一度都会に出て、加賀市に戻ってきた学生は何人かいます。その人たちの理由は、都会での仕事が大変だったとか、夜勤回数が多い、それから、残業時間が長いという理由で戻ってきたという人たちの話も聞いております。

福田部会長 まず最初に加賀市に残らなかった場合の人たちは、他県出身者が多いという理由がございませうでしょうか。

久保出委員 ありません。加賀市出身の人が、一度親元を離れたいという理由で出る人がいます。

福田部会長 前にちょっとありましたね。田舎でばっかり過ごしていると、ちょっと都会に出てみたいという誘惑があるということですか。引きとどめる何か努力を今まではされてきたんでしょう？

久保出委員 主に努力を積極的に始めたのは看護師不足が言われてからです。短い期間かもしれませんが、加賀市民病院の良さ、あるいは加賀市の医療の良さを繰り返し、繰り返し伝えて残るように説明をしております。時間外とか給料面っていうところも比較しながら、そんなに遜色はないんだよというこ

とは繰り返しておりますが、都会というか、金沢市内の病院であっても、給料も上げ、手当も上げということで、だんだん、また少しずつ差が出てきつつあるというのも事実です。

福田部会長　なるほど。第1回のおきに市長さんも見えておられたので申し上げたところですけども、ぜひとも奨学金の範囲内を増やしていただきたい。これも財政的なバックグラウンドが必要なわけですから、無制限にというわけにはいかないでしょうけれども、例えば5年間加賀に勤めた場合は、償還する必要はないよとか条件を求めていただけたら、加賀に残ってしっかりと医療に貢献していただける看護師さんが増えてくるのではないかと思いますから、こういう点も今日は書いていただいておりますけれども、行政として配慮していただきたいと思います。このほか、どうでしょうか。この中間報告をご覧ください。川崎先生、何かご意見賜ることありますか。

川崎委員　看護師確保というところで、学校の併設ってというか、存続させることで決まったんですが、山中温泉医療センターでも離職率はここ数年は0%です。中堅層が大きい病院では、新人教育にほとんど力を費やしてバーンアウトして辞めるということも聞いてるんですが、うちの病院では今のところはありませぬ。ほとんど加賀市の人たちなんです。独身の人も1回都会に出て戻ってきた人も加賀市の方なので、先ほど久保出委員から言われたとおりです。ただ、定着させることとして山中温泉医療センターでは、ワークライフバランスという多様な勤務形態を採用して、子育ての人でも働きやすい職場づくりを取り組んでいます。そのせいもあって離職率がグッと下がったのではないかと思います。夜勤免除、勤務時間を選択できるとか、夜勤体制を選択できるとか、その人のお子さんも子育てもしながら働けるといふところは、今後、働く環境としては当然考えていかなきゃ、どの施設も当たり前のようにやっています。奨学金もうちの病院には月7万円にあるんですが、10年目の実績はようやく今回2例目が出ました。今まで病院、看護学校を回って奨学金のことをアピールしてくるんですが、これも当たり前になってきてます。それがもう売りではなくなってきた、逆にひも付きになりたくないという学生もいて、育英資金の奨学金を借りられる方、みんなこういう事情ですから、資格は取りたいし、お金はないし、奨学金は受けたいといふのはあるんですが、病院の奨学金を受けて働きたいかといふと、そこまでは考えがいかないといふところもあったんですが、方法としては奨学金は作るべきだと思います。マイナスではないと思います。

福田部会長　ありがとうございます。今のお話の中で、一旦、看護師を辞められて家庭に入られて子育て等を終えられた看護師さんのリターンということをやるといふ、例えば保育施設でありますとか、看護師のためのリカレントの養

育と言いますか、講義ですね。そういう支援体制ということを実践させることは、就学環境だけではなくて、自分たちが看護師となったときに支援体制が加賀市として組み立てられているという安心感に繋がっていくと思いますので、これも直ちに在学中の看護師には直接響かないけども、就職をロングスパンで考えたときには、市全体の環境と看護師に対する環境ということに大きく関与してくるのではないかと思います。こういうことも行政としてちょっと考慮して、頭の中に置いていただけたらと思います。他に。

上田委員 それに関してですけども、再就職というんですか、復帰するというところですけれども、今の医療に付いていけないというのがきつとあると思います。そこら辺をまた学校入って実際できるんだよとか、そういう制度を作ったらどうでしょう。

福田部会長 将来大学化ということも視野に入れる。あるいは大学化までいかななくても、加賀看護学校の中に一旦リタイアされた看護師さんに対するリカレント教育の場、例えば夜間でもいいですけども設けるとか、そういう手は工夫としてはあり得るかなというふうに思うんです。

川崎委員 先ほど先生が言われた加賀市全体を文化的というか、教育的な環境、来たって思うようなことは将来的には整えていかなきゃいけないかなと。新病院をきっかけにして、少しずつレベルが上がればいいかなと思いますし、そういうところは期待してるんです。時々新病院のこの話が出たときにはちょっとワクワクした部分なんですけど、人が集まるような病院づくりというところは必要かなと思います。そのためには加賀市の文化、教育体制を少しレベルを上げるような体制には持っていかなきゃいけないかなと思うんです。上田先生が言われたことには私は賛成です。

福田部会長 そうですね。上田先生ご指摘のことは非常に貴重な意見をお出しいただいていると思うんですが、看護学校を含めた、看護師全体の環境整備ということが魅力的な加賀市をつくと。その中での加賀市における看護師の環境と、働く環境、学ぶ環境の整備を総合して考えるということですね。だから、リカレント教育を看護学校でやるか、あるいは新しい市民病院でやるかということとは別にいたしましても、全体的にそういうケアは非常に大事であるということは、論を待たないだろうと思いますから、そういう総合的な医療体制の整備。もちろん一番最初に申し上げたように、これから20～30年後には75歳人口が日本全体で26%を占めるというときが来るわけです。東大の辻先生は「あまりいい表現ではないけども」という前置きして、「津波が来る」というふうに言っておられます。こういう状況の場合は、急性期をつかさどる病院、それから在宅医療とがうまく手を携えていかないと地域医療は完全に破綻してしまいます。地域医療全体をどうするのかということを行

政として、十分に視野に置いていただきたい。その中における看護学の教育、それから、リタイアした看護師の養成ということを一体的に考えて、地域医療をどうするかということも含めて、今回、議論をいただきましたので、その旨、ちょっとまたご配慮いただきたいと思います。他に何か。

上田委員 それに関してばかりなんですけども、復帰した場合に、病院をイメージする方が割とおると思うんです。こういうこともこういうこともできるとか、時間はこういう時間に限るとか、実際に仕事をしとるうちから、あるいは仕事を一旦退職してからでもいいんですけれども、常に連絡を取って知らせてあげて下さい。そうすれば、また復帰する可能性も大きくなると思う。

川崎委員 石川県ではもう登録制になって、ナースバンクはあるんですが、なかなか登録したがないんですよ。本当に発掘が難しくて、リタイアして何年も経ってる人は不安があるので、そういう施設もちゃんと募集してるんです。手挙げした病院とかは、スキルアップできるための手順書も、ちゃんと教育体制も作ってます。実績というと、少しずつは増えてきてるようです。

福田部会長 ありがとうございます。1つ気が付いたんですけど、この中間報告の2ページの養成所の運営について。民営化ということについて、慎重であるべきという意見が多かったと、ちょっと1歩引いた大人しい表現になさっておりますけども、検討事項の整理を見ますと、民営化せずに今の経営形態を維持することを強く要望というふうに書いてございます。これは委員会の決定と言いますか、1つの意見ですので、できるだけこのところの意見に忠実に表現して、もうちょっとはっきりとお書きいただきたいと思います。いかがでしょうか。他に何か。

川崎委員 ちょっと質問なんですけど、資料3の3番目のところで、大部分の償還が終了する平成37年度を目処に看護学校を現在地に継続運営するっていうのは、今までの場所で運営して、その後、新病院に併設するっていうことですよ。建設っていうのはその10年後って、償還が終わる何年前に建設すると。建設する時期というのはいつに。

福田部会長 事務方のほうから説明していただかなきゃいけないことだと思うんですが、これは恐らく10年後になると、看護学校の残債が0になると。そこからでないとは。もう最悪の状態、最大になったところを一応これを目処とするということだと思うんですが、それで間違いないですね。

事務局 今、おっしゃったとおりです。最長の場合でも10年後に建設して、そこに移転するという。そういう表現でございます。

福田部会長 だから、10年後まで待って、そこから今度は併設の工事を始めるということになるわけですか。

事務局 10年後に移転ができるように、10年後の移転開校です。

- 福田部会長
事務局 そういことですか。もうちょっと早く出発せにやいかんわけですね。
 予定と言いますか、目処が決まれば、10年後に移転開校できるように建設も始めるということに。
- 福田部会長 「ただし、」と書いてあるように、先ほどの残債分の跡地利用がどのように進むかによって、うまく進めば残債の一括返済という分が猶予されると。そうなると、看護学校をもうちょっと早く一体型に病院に併設することは可能であると。だから、目処というのは、恐らく最長ということの意味していると思うんです。
- 川崎委員 もし、同時に併設でない場合、期間が何年かであったとしても、例えば定員40人にするのは、新病院になってから40人が決定した時点で、それまでは30人定員でするってということとしてよろしいんですか。
- 福田部会長 40人にする時期については、まだこの部会では議論されておられません。新設になったとき40人にするのか、あるいは、こちらに残っている状態でも、全く手を入れずに今のまま残すというお考えなのか、幾分不足分があれば、今の看護学校に手を入れてある程度の改修、拡張をして40人にするのかというのは、選択が分かれると思うんですね。これも結局は、ここの意見としてどういうことが望ましいかという意見、それから、財政面、市の行政面から考えて、どちらを選択するかということの両方の兼ね合わせだろうと思われます。川崎委員はどのようにお考えですか。時期的にはいつというふうに望ましいとお考えですか。
- 川崎委員 お金が絡んでくるので、とても難しいことだなと思うんですが、看護学生を育成するという部分では、今、行われている医療を見せてやりたい。医療とはこんなんだ、看護とはこんなんだというのを身近に感じていただきたいので、新病院と同時に開設が私はできれば望ましいと。
- 福田部会長 一番望ましいということですね。他の先生方、いかがでしょうか。上田先生、いかがですか。時期の問題ですね。
- 上田委員 なるべく早くということですよ。
- 福田部会長
久保出委員 久保出先生はいかがですか。何かあると言い難いかもしれませんが。
 36なら今でもオーケーなのかなと思いますが、その手続きをすることによって不備なところがさらけ出ることになりますので、工事などの必要性が出てくるように思います。そのコストが掛かることもまた出てくるように思いますので、十分に慎重にその分も含めて、いずれ10年以内にはどこどこへ行く可能性があるとしたら、新たに工事することの意味ってというのは、どうなのかなと思います。それも考えていただきたいと思います。
- 福田部会長 今すぐ、36名にします、あるいは40名にしますと。どうしても部会としては、もう同時に併設してもらわねば困るという意見を出したとしても、

市全体の財政の問題もあります。いろんな問題もあるから、これはなかなか即断ができないだろうと思いますので、一応、この資料3に書かれているような、遅くとも10年まで、残債が0になるときを目途とする。しかし、当然、併設することが絶対条件になってるわけですから、できる限り早期に併設移転するというこの表現で、部会の意見としてまとめさせていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。このできる限りという中には、行政面で残債部分の病院の跡地利用の方針を頭を絞っていただいて、できるだけ市民にも利用価値があって、皆から喜ばれて、市の発展にもなっているという跡地利用を考えて、できるだけ早く移転ができるというふうに持っている措置を講じていただきたいと。40人体制が望ましいという意見が、部会の意見として出てるわけです。それに従っていつ頃やるのかということも含めて、行政としてお考えいただきたいと思う次第でございます。そういうまとめ方でよろしゅうございますでしょうか。

久保出委員 学校の立場で、いつも学生を見ている立場で一言だけ申し上げたいんですが、学生のことを考えますと一刻も早く、学校が新たな場所に建つということは非常に望ましいと思います。その辺もぜひご考慮いただいて、検討していただけたらと思います。よろしくをお願いします。

福田部会長 それはきっと行政の方でいいアイデアを出していただけるとと思います。一応、この原案どおりの中間まとめということをお認めいただいたことにいたしまして、上位の委員会に上げていただきたいと思います。まだ幾分時間がございます。せっかくの機会でございますから、ちょっと全体を通してご意見を賜りたいと思います。何かございますか。

上田委員 現在、働いている方とか学生、それから、離職した方とか、いろんな人がいますから、ぜひ、そういう人の声をまた調査してください。お願いします。

久保出委員 学校では卒業生に対して、一応アンケート調査をしてそういう声を集めて、少しでも今後の働きやすい職場づくりに役立てたいと思っております。それともう1つ、先ほど再就職を希望する人に対する教育についてですが、5月の初めだったと思うんですが、北陸中日新聞に病院と学校が連携をして、そういう人たちを育てる場っていうのを作っていくのが望ましいというようなことが書いてありました。加賀市民病院の新人教育担当師長にお話ししまして、何とか形にしたいということでお話ししてたところです。やはり、学校の色々な設備を使って、看護師教育をすることは可能だと思いますので、学校と病院と連携しながら、より良い看護師をつくっていったらいいなと思いますし、多くの看護師を受け入れていきたいと思っております。

福田部会長 先ほど上田先生の話の中でもチラッと出ていたと思うんですが、もう1つ重要なことは、FDと呼ばれる活動ですね。ファカルティ・ディベロップメ

ント (Faculty Development) という考え方、これは大学では一般的になっておるわけですが、教員、教えるほうの側のいろんな、例えばカリキュラムの実質化だとか、あるいは、実際の授業のカリキュラムの問題、卒業要件の問題、教師力の問題、これを一体看護学校として、どのように構築していくのかに関しては、久保出先生、何かお考えございますか。

久保出委員 教師力を高めるためにということで、実際に学校に異動してきた職員に関しましては、教員研修等の研修を必ず受けさせております。それから、学内におきましても授業評価等を行っておりますので、お互いの授業の進め方等については意見交換をしています。それから、研修会はいろんな場所でありますので、研修会に参加する。あるいは厚生労働省のほうの指導を受けて、さまざまな改善をするように努力をしています。現在のところ、大学卒の教員も非常に多くなっておりまして、教員自身の資質の向上、あるいは研究心の向上を高めるための努力はしているつもりでおります。

福田部会長 ありがとうございます。川崎先生、その辺のことについてはいかがですか。

川崎委員 山中温泉医療センターでは、学生は自治医大の学生が体験学習で来るんですが、私たちは看護は楽しい、患者さんと接することが楽しいことをまず、教えるんですね。学校では理論を教えますので、現場では学校で言うてくようだよっていうことを体験して、知識と技術が一緒になるように工夫しなきゃいけないと思います。ただ、研修に行くのは結構上のほうであって、実際の指導をするのは、3～5年目、一番業務でリーダーをして、さらに学生も見なきゃいけない。とても疲弊しているような状況なので、その辺のカバーというか、学校も受ける病院も実習体制というのをきちんと工夫しないと、なかなか本当に看護の良さ、楽しさが伝えられないんじゃないかなって私は思います。他の学校、大学でやってらっしゃることとか、いろんなところで、どういう実習をしてるかも当然見なきゃいけないかなと思いますし、受ける側と送る側とそういうところは話し合いしなきゃいけないかなと思います。

福田部会長 学生のほうのいろんな講義に対する評価ということも取っておられるというふうに聞きましたけども、一般的にどうですか。非常勤の先生方も含めてやっておられるのでしょうか。

久保出委員 学生からの評価を受けてる非常勤の先生は少ないです。

福田部会長 それはやっぱりやるべきですな。非常勤の先生の中にもいい加減なのがおってもらったら困るわけで、しっかりと特にきちっとした講義をやってもらってるかどうか。シラバスというのは作っておられますか。

久保出委員 シラバスは作っておりますし、教員になる方々については、一度、副学校

長、教務課長、総務課長で面接をさせていただいて、学校の担当するにふさわしい先生なのかどうかを一応、確認させていただいて講義をしていただく。特に基礎科目に関しては、他の学校に比べて、素晴らしい先生方にお越しいただいていると思っております。授業の進め方等については、いろいろあるところもあるかとは思いますが、ご経歴とか、お力については、非常に素晴らしい先生方に来ていただいております。

福田部会長 非常勤の先生も含めて、学生評価ということはおやりになって、いろんなものがあれば、生の声を講師の先生方にそのままお返ししていくと。自分ではいい講義をしているつもりでも、実は学生にはさっぱり分からないということが往々にしてあるものですから、これは、我田引水的な講義にならないためにも、学生の本当の就学環境を良くするためにも、ぜひこれからも教育の改革という面を看護学校として、いろいろお考えいただけたらと思います。

久保出委員 努力します。

福田部会長 他に何かご意見いただくことはございませんでしょうか。

それでは、ちょっと早いようですが、事務局のほうにバトンタッチいたしたいと思います。何か事務局のほうから連絡いただけますでしょうか。
どうも長時間ありがとうございました。

事務連絡

- ・ 次回の看護部会は7月頃を開催予定。
- ・ 日程調査表を配布したので、都合を知らせてもらいたい。尚、部会長の予定を優先して調整したい。

以上